

まち・ひと・しごと創生

石岡市人口ビジョン

(案)

～目次～

1. 「ひと・まち・しごと創生（地方創生）石岡市人口ビジョン」とは	3
2. 石岡市の人口の現状	4
(1) 石岡市の人口推移	4
(2) 石岡市の世帯構成推移	4
(3) 石岡市の人口動態（社会増減・自然増減）の推移	5
(4) 石岡市の社会増減の推移	5
(5) 石岡市の合計特殊出生率.....	6
(6) 石岡市の従業人口推移	7
3. 石岡市の人口動向における問題と課題	8
(1) 石岡市の将来人口動向	8
(2) 住民アンケート調査結果に見る社会変動に関する特徴.....	9
(3) 石岡市の人口における問題と課題.....	15
4. 石岡市の人口ビジョン（人口の将来展望）（案）	16
(1) 石岡市が目指す将来人口の考え方	16
(2) 石岡市の人口ビジョン（案）	17

1. 「ひと・まち・しごと創生（地方創生）石岡市人口ビジョン」とは

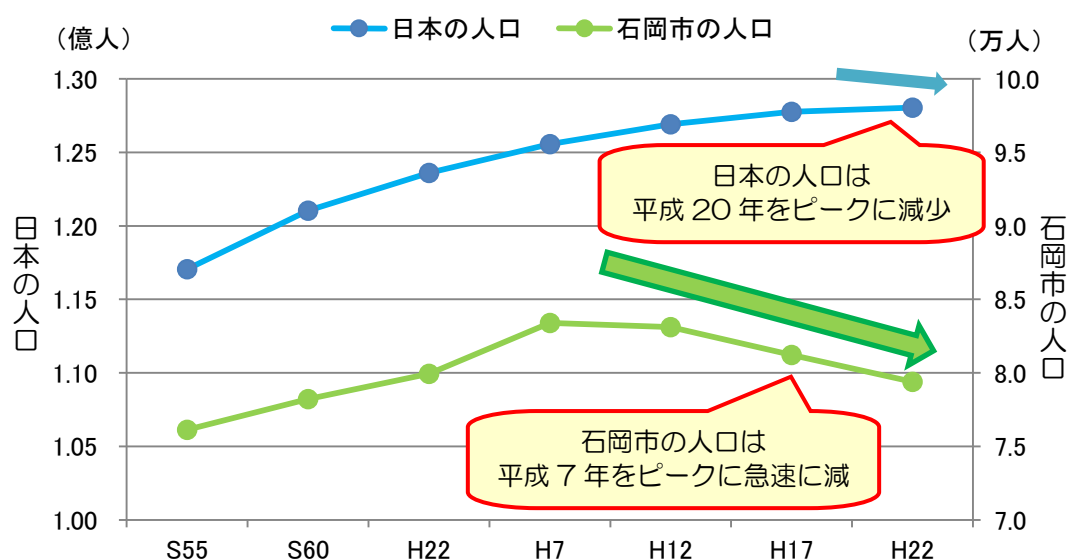
日本の人口は平成 20 年（2008 年）をピークに減少傾向に転じ、国全体でも本格的な少子高齢化時代に突入しました。

これに対し石岡市の人口は国全体よりも早い平成 7 年（1995 年）から減少に転じています。更に日本創成会議が発表した資料では、子供を産み育てる若年女性（20 代・30 代）が半減する「消滅可能性都市」に該当しているなど、本市の人口は今後これまで以上に急速な減少が予測されています。

人口の減少は消費や経済力の低下を招き、今後の経済社会や一人一人の生活に大きな影響を及ぼすことが懸念されており、本市においても人口問題への対応が喫緊の課題となっています。

そこで、石岡市の人口の減少の状況を的確にとらえ、今後の石岡市の人口のあり方（自然増減（出生・死亡）、社会増減（転入・転出））と将来人口に関する目標として「ひと・まち・しごと創生石岡市人口ビジョン」を策定しました。

本人口ビジョンを実現のものにするため、別途策定する「ひと・まち・しごと創生石岡市総合戦略」に示す各種施策を展開し、これまで以上に豊かで活力のある石岡市の実現を目指します。



▲日本の人口と石岡市の人口推移

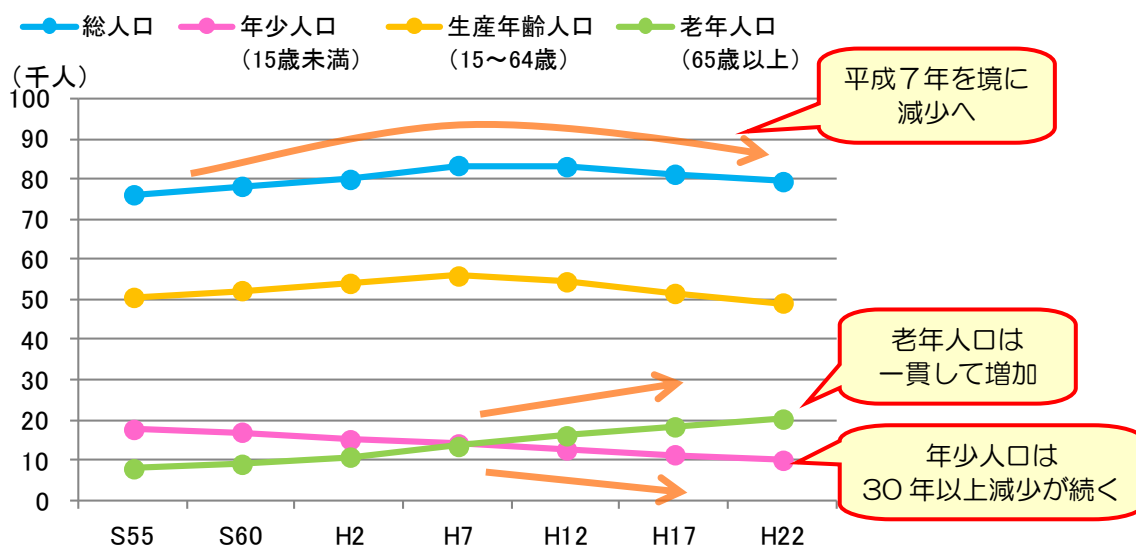
資料：国勢調査

2. 石岡市の人口の現状

(1) 石岡市の人口推移

石岡市の人口は平成7年をピークに減少に転じ、平成22年現在約7.9万人となっています。人口の内訳をみると、年少人口（15歳未満）は過去30年間一貫した減少、生産年齢人口（15歳～64歳）は全体人口と同様に平成7年を境に減少に転じ、高齢人口（65歳以上）は過去30年間一貫した増加を示しています。

特に、今後の石岡市を背負っていく人材である年少人口の減少は、将来の石岡市の活力につながっていくことから、早期の改善が課題となっています。

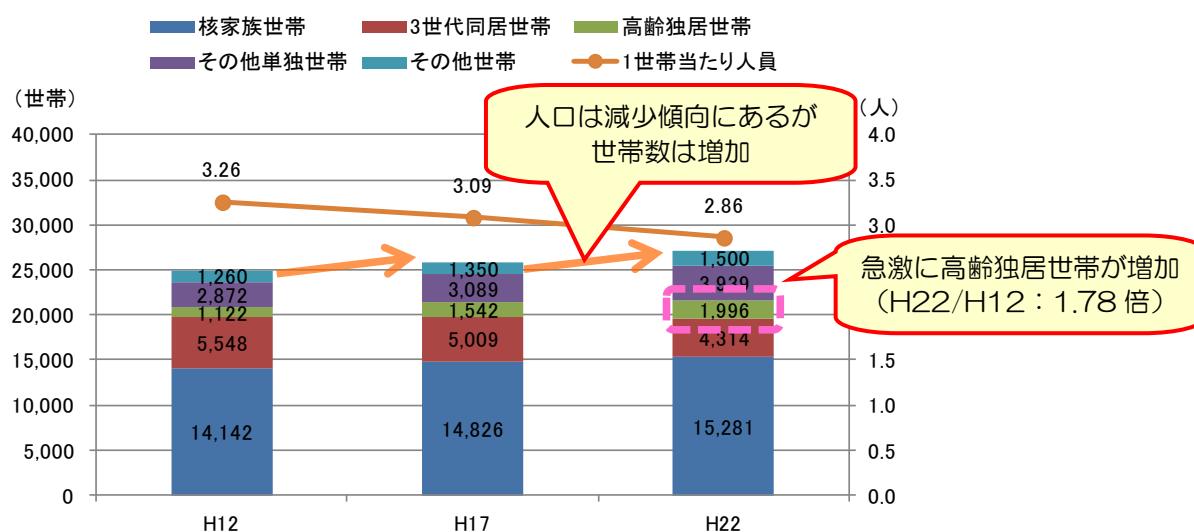


▲石岡市の人口推移

資料：国勢調査

(2) 石岡市の世帯構成推移

石岡市の世帯数は人口が減少しているものの、増加が続いています。核家族化や独居老人世帯の増加などが主な要因となっており、子育てや老人介護などにおいてこれまで以上に地域全体の協力が求められています。

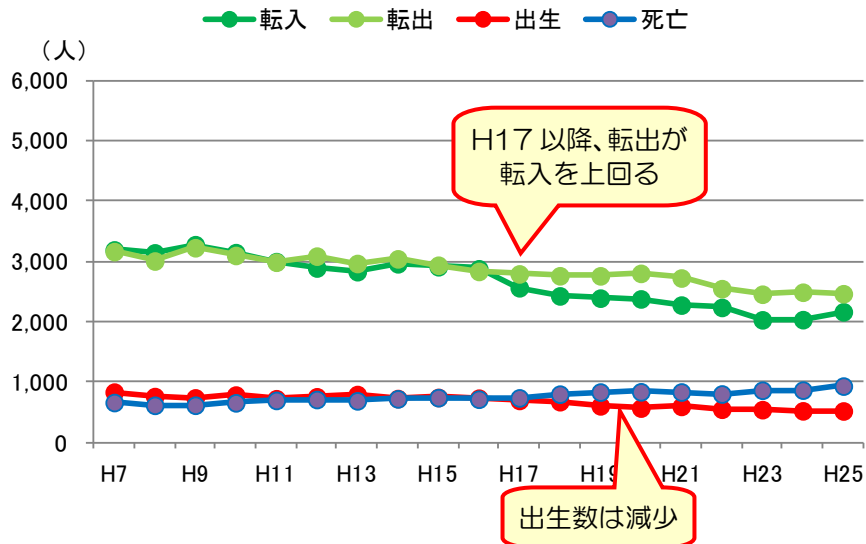


▲石岡市の世帯数・1世帯当たり人員の推移

資料：国勢調査

(3) 石岡市の人口動態（社会増減・自然増減）の推移

石岡市の人口動態のうち、社会増減（転入・転出）は平成17年頃を境に転出者数が転入者数を大きく上回る年が続き、社会減の状態が続いています。自然増減（出生・死亡）については、横ばい傾向が続いていましたが、近年死亡者数は増加、出生者数は減少となっており自然減も大きくなっています。



▲石岡市の転入・転出・出生・死亡者数の推移

資料：住民基本台帳人口移動報告

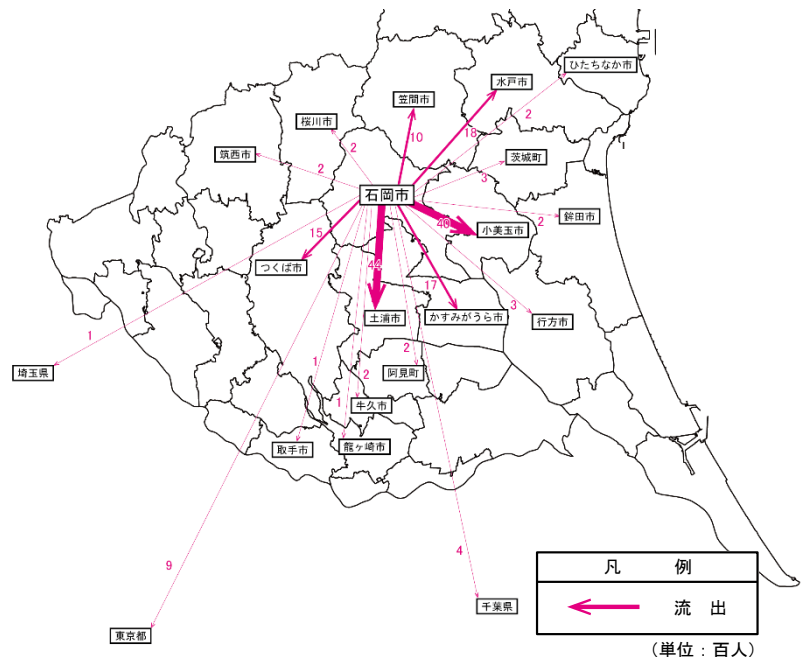
(4) 石岡市の社会増減の推移

石岡市人口の社会減（転出－転入がマイナス）となっている都市は、土浦市を筆頭に、つくば市、牛久市などとなっています。これを石岡市居住者の通勤先と比較すると概ね整合が見られており、石岡市からの主な転出先は、主要な通勤先となっていることが伺えます。

▼石岡市から転出超過となっている

転出先上位

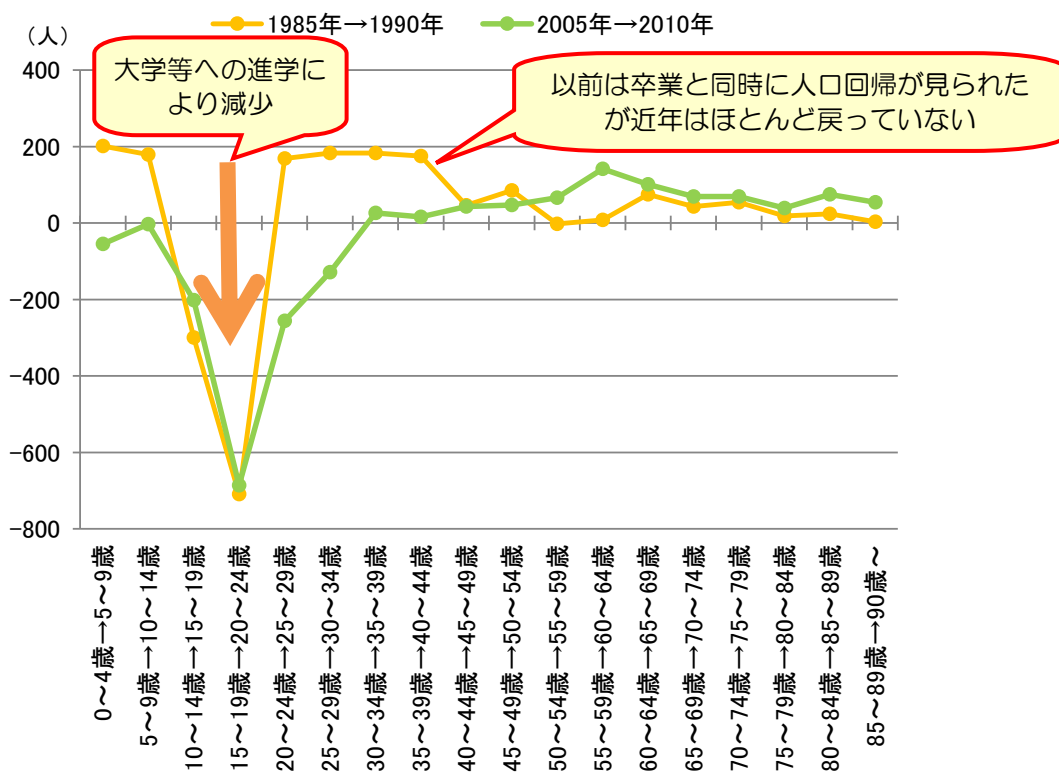
転出超過数内訳	
1位	茨城県土浦市 63人 (9.8%)
2位	茨城県つくば市 46人 (7.1%)
3位	茨城県牛久市 31人 (4.8%)
4位	茨城県笠間市 26人 (4%)
5位	神奈川県平塚市 19人 (2.9%)
6位	東京都練馬区 16人 (2.5%)
7位	東京都江戸川区 14人 (2.2%)
8位	千葉県市川市 14人 (2.2%)
9位	茨城県守谷市 13人 (2%)
10位	東京都新宿区 11人 (1.7%)



▲石岡市の通勤・通学流動 (H22)

資料：国勢調査

人口動態のうち、社会増減を年齢階層別にみると大学が市内に立地していないため、以前から大学等への入学する年齢で大きな減少が見られていました。しかしながら以前(昭和60年⇒平成2年)は卒業後に一定の若者が市内に戻ってきていましたが、最近(平成17年⇒平成22年)では、卒業後に戻る人がほとんどいない状況となっています。

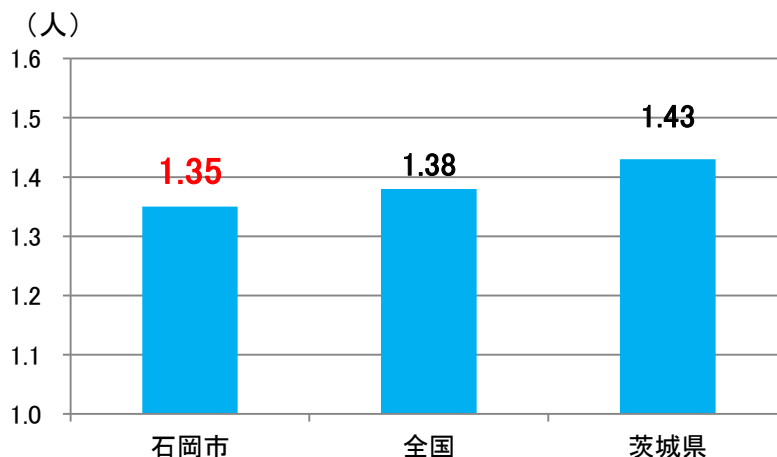


▲石岡市の年齢階層別純移動数の時系列分析

資料：国勢調査、住民基本台帳人口移動報告

(5) 石岡市の合計特殊出生率

石岡市の合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子供の平均数）は 1.35 人と全国平均（1.38 人）や茨城県平均（1.43 人）を下回っています。子供の生みやすい環境を作り、安心して出産・子育てができる環境の創出が課題です。



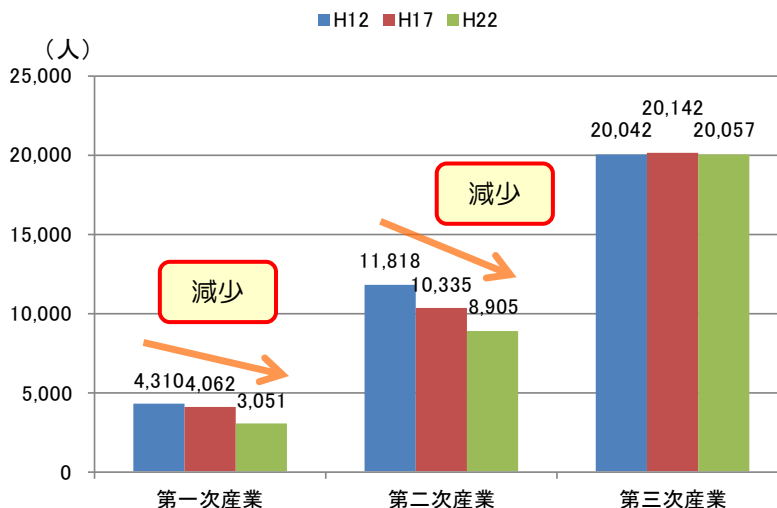
▲石岡市と茨城県、全国の合計特殊出生率 (H20～H24)

資料：人口動態保健所・市区町村別統計

(6) 石岡市の従業人口推移

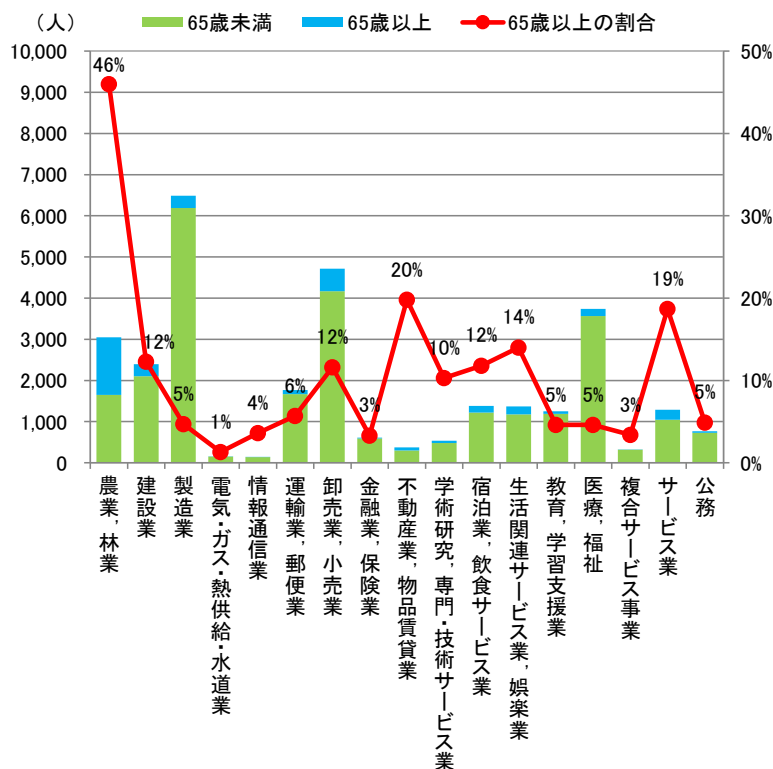
石岡市で働く人の人口（従業人口）は、近年減少を示しています。特に1次産業（農林水産業）や2次産業（建設・製造業）で減少が顕著です。

また、県内有数の果樹（柿、なし等）生産量を誇る農業においては、従業者の高齢化も顕著（全従業者の約45%が65歳以上）となっており、働く場の確保や農業の後継者確保なども課題となっています。



▲石岡市の産業別従業人口の推移

資料：国勢調査



▲石岡市の産業別従業人口と高齢者比率

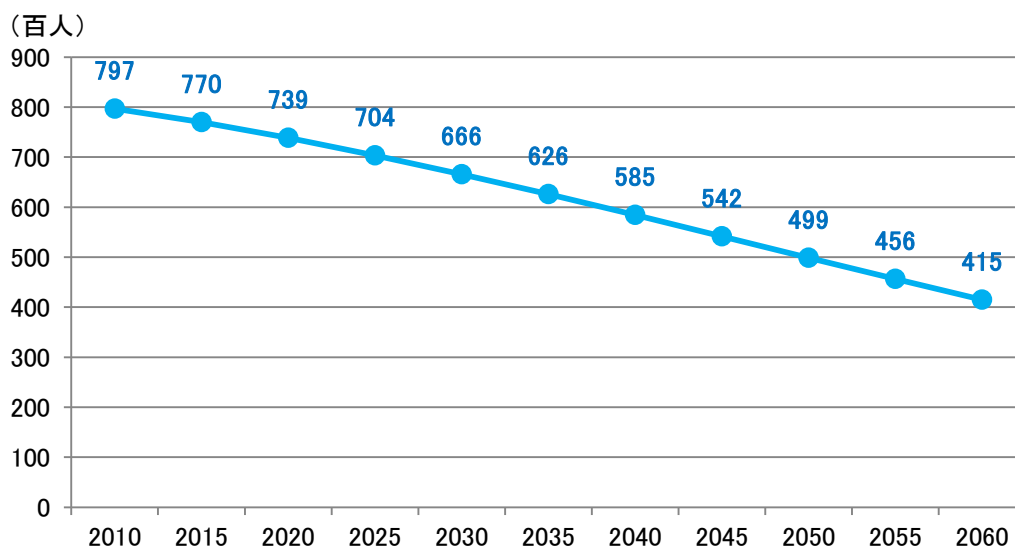
資料：国勢調査

3. 石岡市の人口動向における問題と課題

(1) 石岡市の将来人口動向

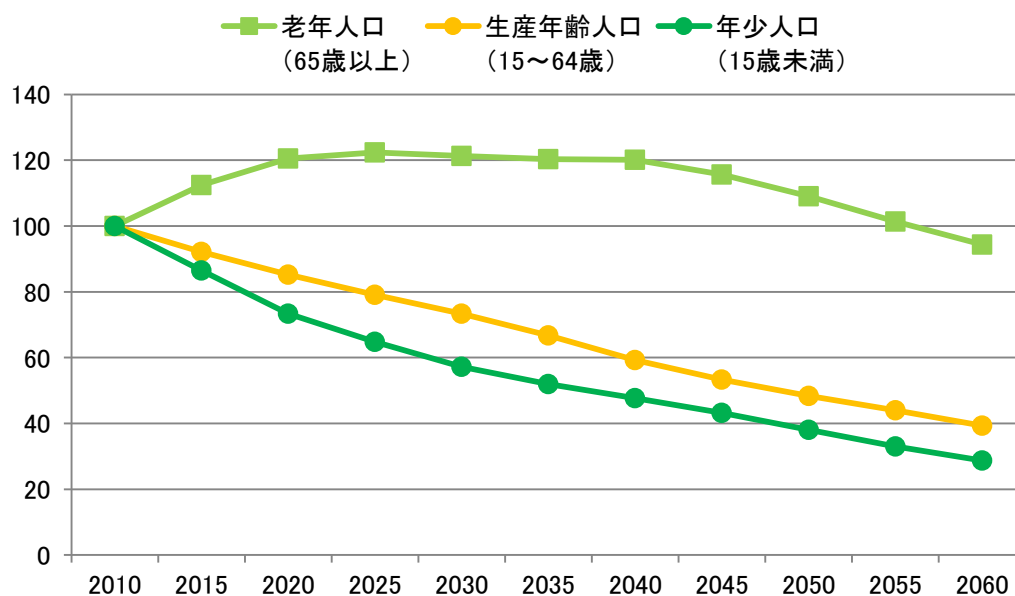
国立社会保障・人口問題研究所が推計する石岡市の今後の将来人口では、今後も一貫した減少傾向が続き、25年後（2040年）には現在の75%となる58,500人、45年後（2060年）には現在のほぼ半分となる41,500人となるなど、厳しい予測結果となっています。

この結果から、石岡市が今後も持続的に発展していくためには人口減少の抑止、減少から増加への転換を図ることが喫緊の課題となっています。



▲石岡市の将来人口（社会問題・人口問題研究所の推計）

資料：国立社会問題・人口問題研究所



▲石岡市の年齢階層別将来人口の推移（2010=100）（社会問題・人口問題研究所の推計）

資料：国立社会問題・人口問題研究所

(2) 住民アンケート調査結果に見る社会変動に関する特徴

石岡市民を対象としたアンケート調査結果から、社会変動に関する実態を把握しました。

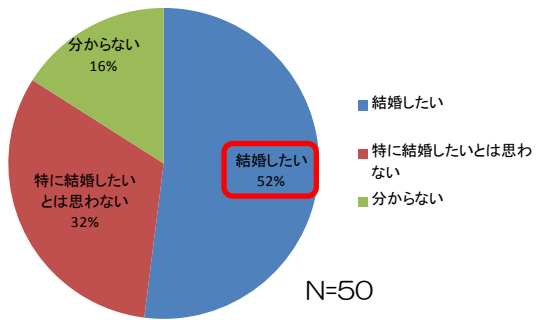
▼アンケートの配布・回収状況

アンケート項目	配布対象	実施期間	回収枚数
1) 結婚・出産・子育て	20歳～40歳の住民	H27.7～	122枚
2) 定住・移住	20歳～60歳の住民		165枚
3) 地元就職や進路希望	18歳～24歳の住民		117枚
4) 転入・転出	期間内に住民票の移動申請者	H25.3.8～H26.1.31 H26.5.1～H27.4.30	1217枚 431枚

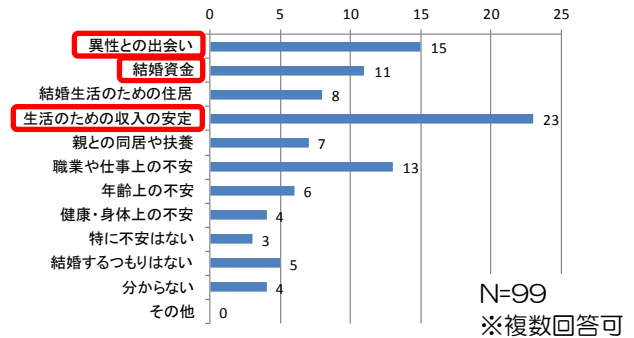
※1)～3)はアンケート調査実施中。調査結果はH27.7.31現在。

1) 結婚・出産・子育てに関する意識調査

独身者の半数が結婚したいと思っています。しかし、結婚後の生活資金や結婚資金といった経済的な不安を抱えているのが現状です。また、異性との出会いが少ないと感じている方も多くいます。

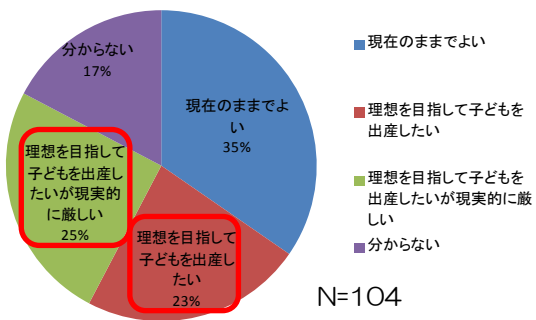


▲結婚に関する意向

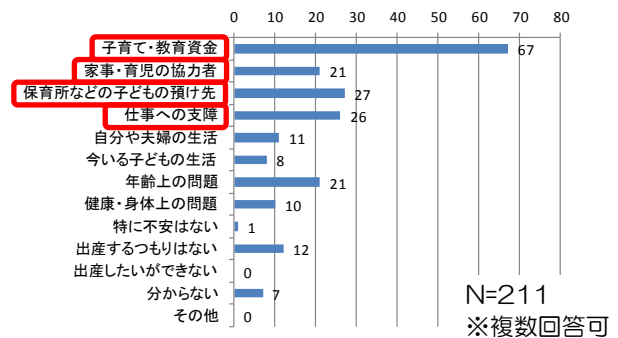


▲結婚に対しての不安

今後の出産に関しては、およそ5割の方が理想を目指して子どもを出産したいと考えていますが、その内半数の方は現実的に厳しいと感じています。その理由としては、子育てに係る経済的な不安が多くあげられています。また、仕事への支障や子どもの預け先、家事・育児への協力者といった、仕事と出産・育児の両立について不安を感じています。

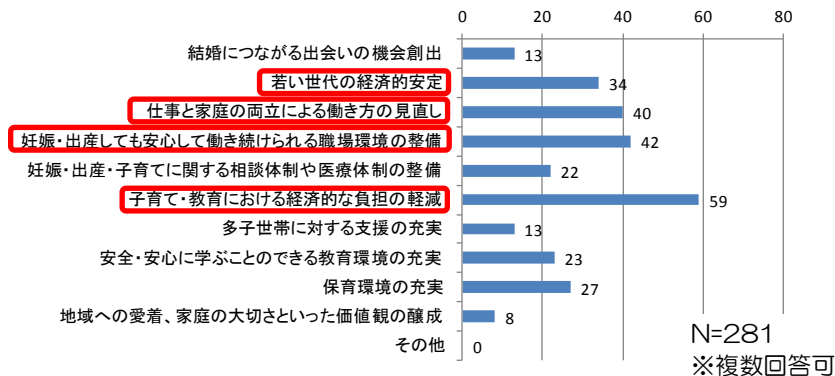


▲出産・育児に関する意向



▲出産・育児に対しての不安

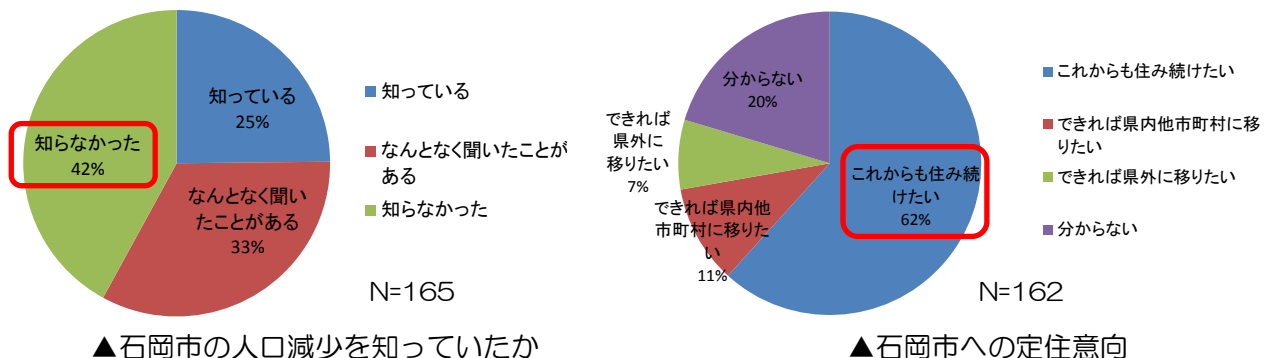
このような結婚・出産・子育てに対しての不安を解消し、希望をかなえるために取り組むべきこととしては、子育て世代の経済的な負担軽減や安定と、仕事と子育ての両立が可能な環境の整備が重視されています。



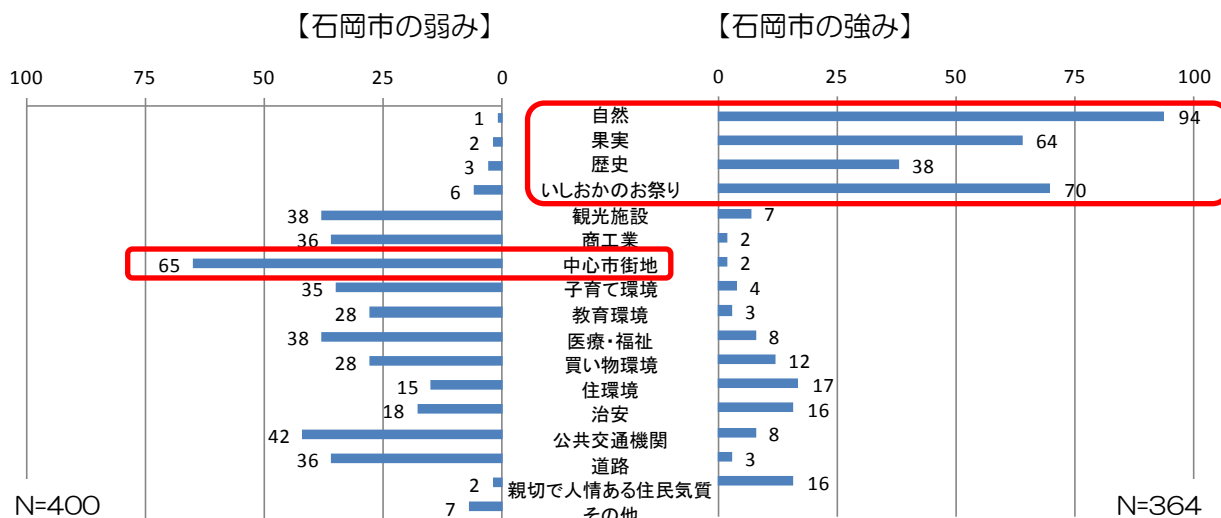
▲結婚・出産・子育てに関する取り組みで重視すべきこと

2) 定住・移住に関する意識調査

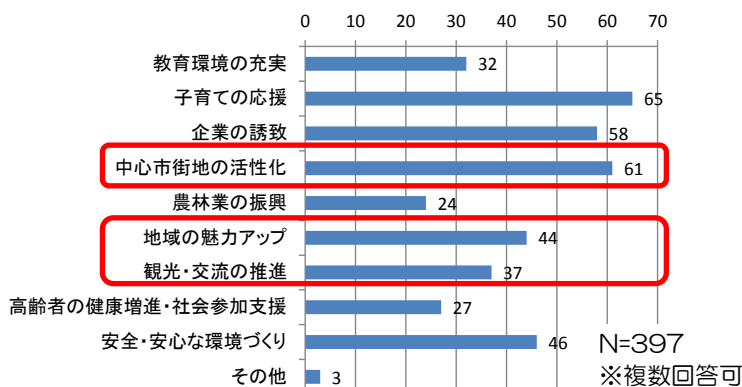
石岡市の人口減少について、知らなかったと回答した方が約4割にも上っているのが現状であり、人口減少に対する危機感を市民と共有していく必要があります。



これからも石岡市に住み続けたいと思っている方は約6割に上り、自然や果物、いしおかのお祭りや歴史について誇りに感じています。一方で、中心市街地の衰退については、最も多くの方が弱みと感じており、観光施設、公共交通や道路についても弱み（改善すべき）と感じている回答も多くありました。さらに、今後取り組むべきこととして、中心市街地の活性化や地域の魅力アップ、観光・交流の推進を求める声が多いことから、自然やお祭り、歴史といった石岡市の強みを活かしてないことが伺えます。また、子育ての応援や企業誘致も重視することが求められています。



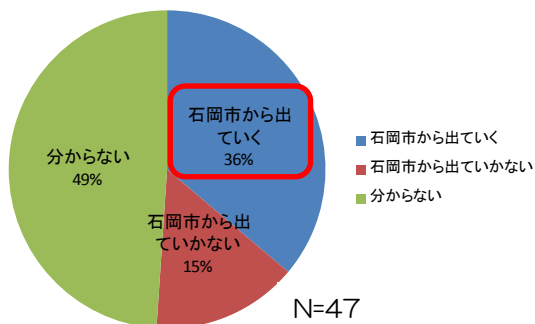
▲石岡市の弱み・強み



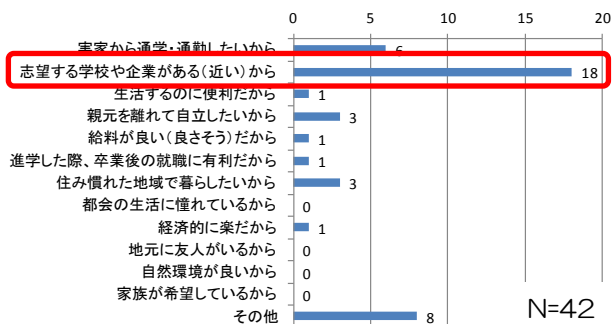
▲定住促進のための取り組みで重視すべきこと

3) 地元就職や進路希望に関する意識調査

希望する進路に進んだ場合、石岡市から出て行くと回答した学生は約36%おり、その多くが志望する学校や企業が市外にあるという理由です。



▲学生の定住・移任意向

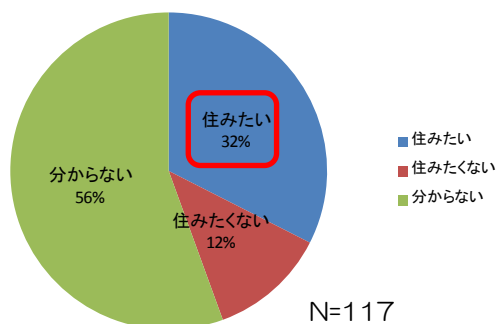


▲学生の定住・移住の理由

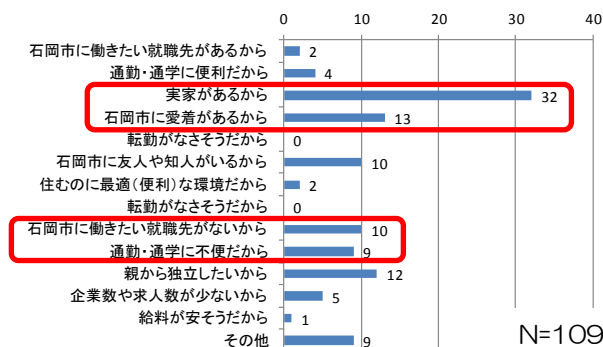
将来的に、石岡市に住みたいと回答した方は約3割おり、その理由としては石岡市に実家があることや愛着があることが多くなっています。

一方、約1割の方が住みたくないと回答しており、その理由として親から独立したいという理由の他に、働きたい会社がないことや通勤が不便なことが多く回答されています。

このことから、将来、石岡市に住みたいと感じていても、魅力ある就業先の不足や通勤時間の短縮につながる利便性の高い通勤交通手段の不足が石岡市への定住の支障となっていることが伺えます。



▲若者世代の将来的な定任意向



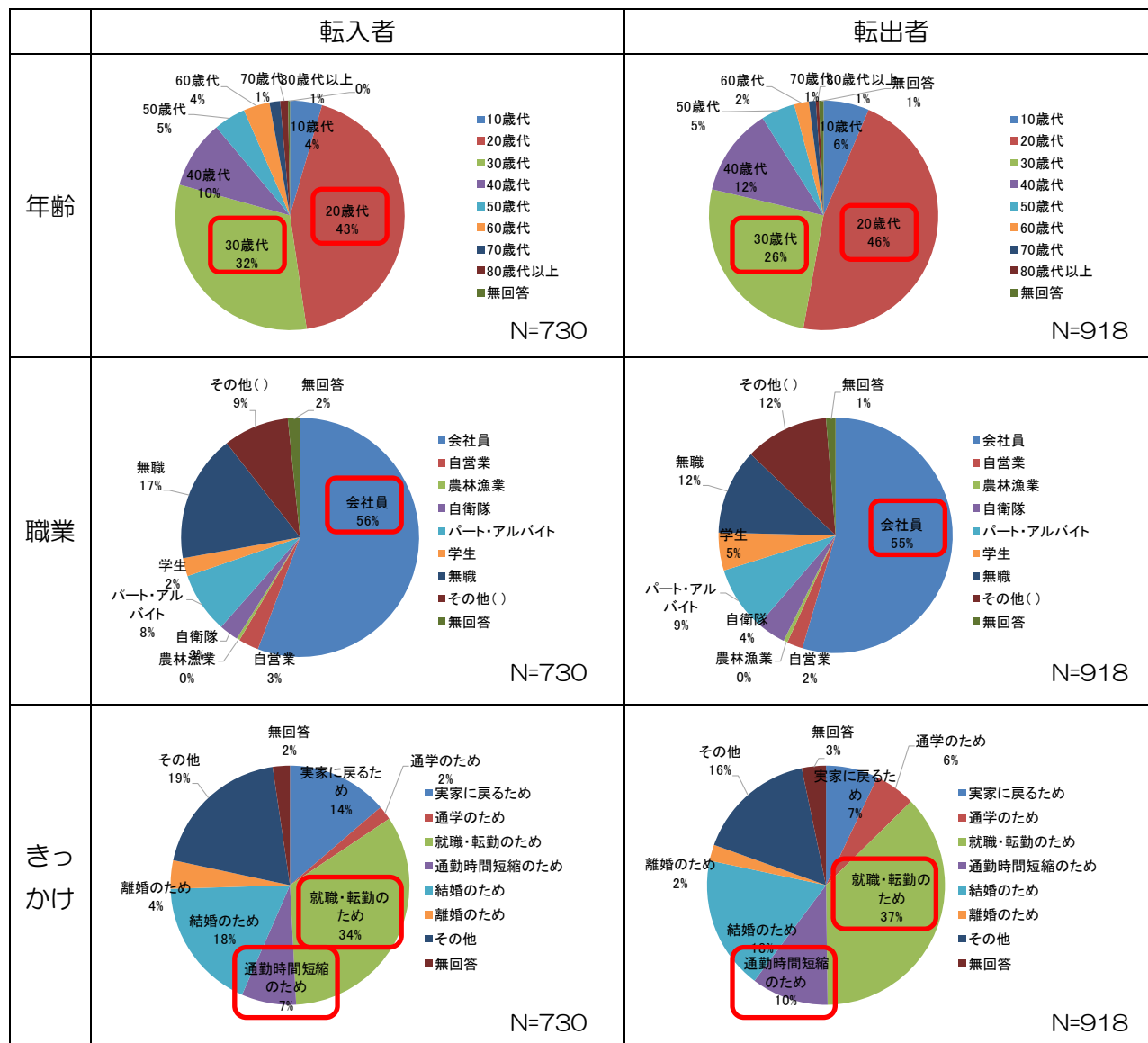
▲若者世代の将来的な定住・移住の理由

4) 転入・転出に関する意識調査

転出入者の年齢構成と職業では、転出入者の大半が20代もしくは30代の会社員となっています。また、転出入のきっかけはどちらも約半数が就職・転勤又は通学となっています。

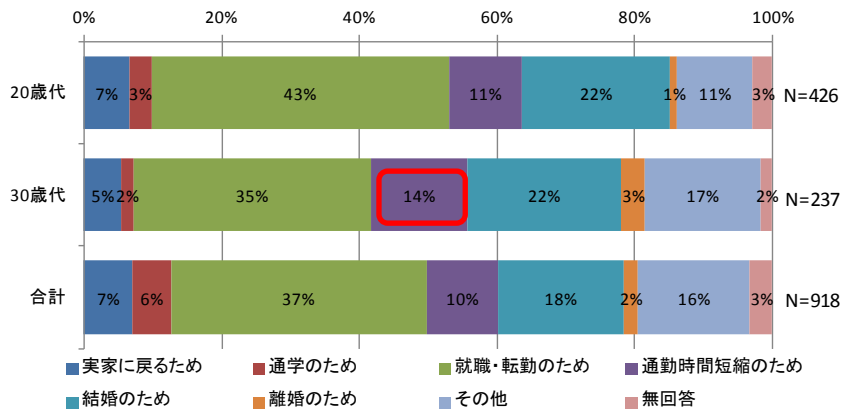
この結果から、石岡市に転入又は石岡市から転出する人の多くが仕事もしくは学業関連で引っ越ししていることが伺えます。しかしながら通勤時間の短縮のためとの回答は転入者が約7%であるのに対し、転出者では約10%と多くなっています。

▼石岡市の転入・転出アンケート回答者の属性と転出入のきっかけ



この結果について、20歳代と30歳代に絞って転出のきっかけを確認すると、特に30歳代で「通勤時間の短縮」を理由とした転出の割合が多くなっています（約14%）。

通勤時間の短縮を理由とした転出者の転出先と勤務先を見ると、その多くが勤務先自治体への転出となっていますが、近隣自治体から土浦市やつくば市に勤務する人の転出も確認されます。



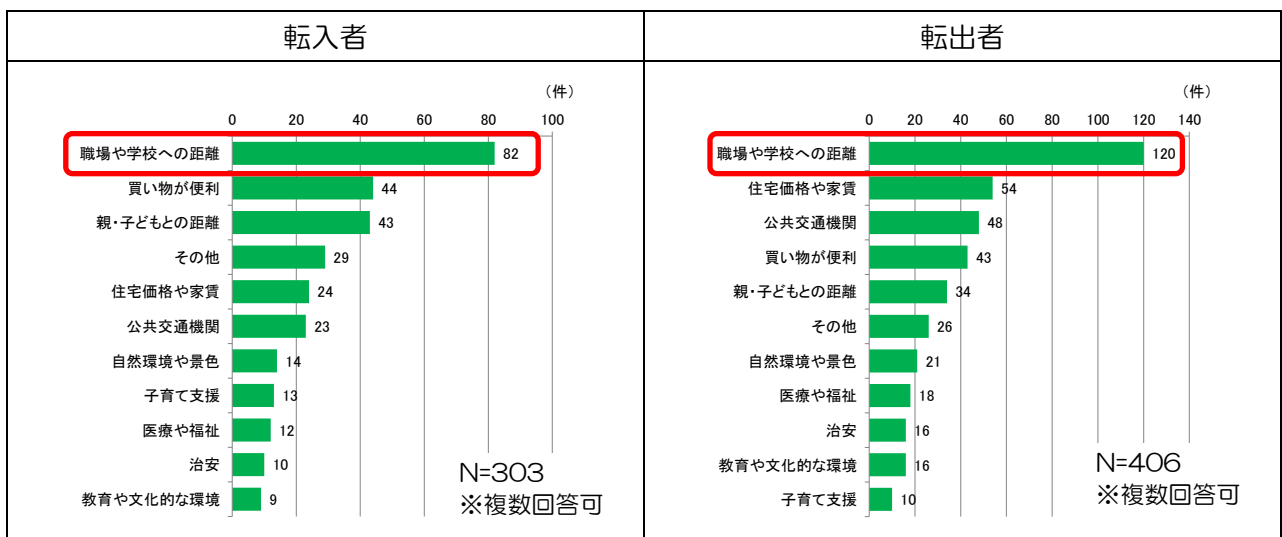
▲石岡市から転出する人の20歳代・30歳代の転出のきっかけ

▼「通勤時間の短縮」を理由とした転出者の転出先と勤務先

■ 転出先と勤務先が違う			■ 転出先と勤務先が同じ		
転出先	勤務先	件数	転出先	勤務先	件数
かすみがうら市	土浦市	5	土浦市	土浦市	10
土浦市	つくば市	5	水戸市	水戸市	10
千葉県	東京都	3	つくば市	つくば市	7
つくば市	東京都	2	小美玉市	小美玉市	6
水戸市	ひたちなか市	2	千葉県	千葉県	4
取手市	東京都	2	東京都	東京都	4
かすみがうら市	つくば市	1	かすみがうら市	かすみがうら市	2
つくば市	かすみがうら市	1	水戸市	ひたちなか市	2
笠間市	水戸市	1	笠間市	笠間市	1
つくば市	坂東市	1	美浦村	美浦村	1
水戸市	笠間市	1	神栖市	神栖市	1

他24件

転出入先の居住地を決める重視点では、どちらも「職場や学校への距離」が他の項目に比べ非常に多くなっており、社会増減を増加に転じさせるためには便利な通勤・通学手段の構築が大きな効果が得られると考えられます。



▲住まいを決めるときの重視点 (H26.5.1~H27.4.30 調査分のみ)

(3) 石岡市の人口における問題と課題

ここまでに分析・整理した石岡市の人口の現状から石岡市が今後持続的に発展していくための人口面における問題と課題として以下のような点が挙げられます。

▼石岡市の人口動向における問題と課題

人口動向に関する現状	問題点	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 総人口の減少と少子高齢化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を支える現役世代の減少による、住民全体の負担増への懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者や子育て家族を支援し、誰もが安心して暮らせる石岡市の創出
<ul style="list-style-type: none"> ・ 核家族化や独居老人の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てに関する両親への負担増大、高齢者の介護等に関する地域や行政への負担増大への懸念 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然動態・社会動態ともに減少傾向を示す人口動態 ・ 社会動態では大学入学や就職時期での転出超過と石岡市へ戻る人の減少 ・ また、主要通勤先（土浦、つくば等）への転出超過 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力ある就業先の不足及び通勤時間の短縮につながる利便性の高い通勤交通手段の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力ある働く場の創出と周辺自治体への利便性の高い交通手段の構築
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然動態では出生者の減少と高齢化の進展に伴う死亡者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国や県平均に比べて低い合計特殊出生率 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して産み・育てられる子育て環境の創出
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内従業者数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業従事者や製造業従事者の減少 ・ 農業従事者の高齢化と後継者不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力ある働く場の創出（再掲）

4. 石岡市の人口ビジョン（人口の将来展望）（案）

石岡市が今後も持続的に発展していくために目指すべき人口の将来展望を以下に示します。

ここで示す「石岡市の人口ビジョン」を実現するためには、先に示した問題点や課題の解消・克服が必要不可欠です。このため石岡市においては市単独で可能な限りの取組み（施策）を展開するほか、国や茨城県の支援策も含めた問題・課題改善策を展開します。

また、市民の皆様の協力もよろしくお願い申し上げます。

（1）石岡市が目指す将来人口の考え方

石岡市の人口減少はここまでの現状分析から、「出生率の低下」（生まれる人数の減少）と「転出者の増加及び転入者の減少」から生じているものと考えられます。

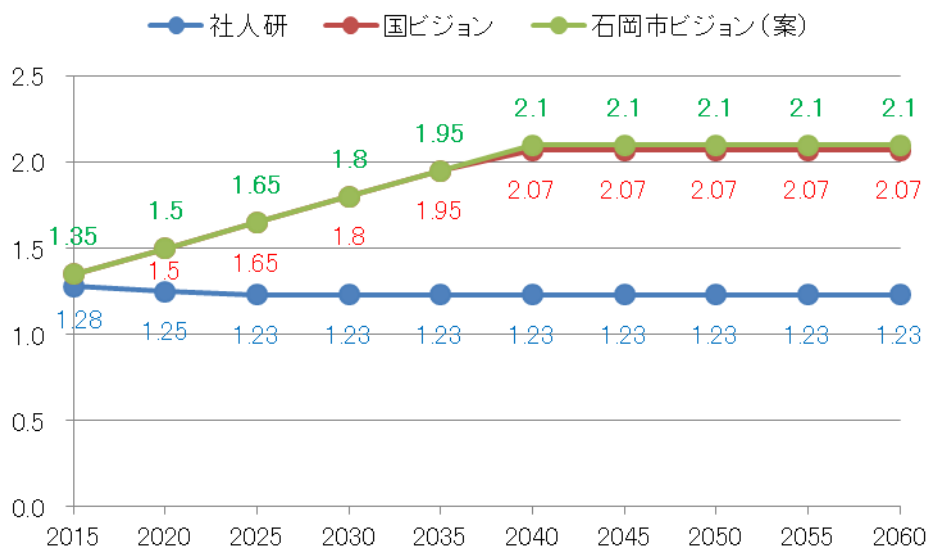
このため、石岡市の人口減少を食い止めるためには以下2点への転換が求められます。

- ①合計特殊出生率の増加：生まれる子供の数を増やす
- ②転出超過から転入超過へ：石岡市から他市町村へ引っ越す人を減らし、石岡市へ引っ越してくる人を増やすことで転入超過とする

上述の人口動向に関する2つの指標については、国が定めた「国の長期ビジョン」（2060年に1億人程度の人口を確保する中長期展望）を参考に石岡市独自に以下のように設定しました。

①合計特殊出生率の目標

合計特殊出生率の目標値は、「国の長期ビジョン」（2040年までに2.07まで上昇）を参考に、2040年までに2.10まで上昇することとしました。



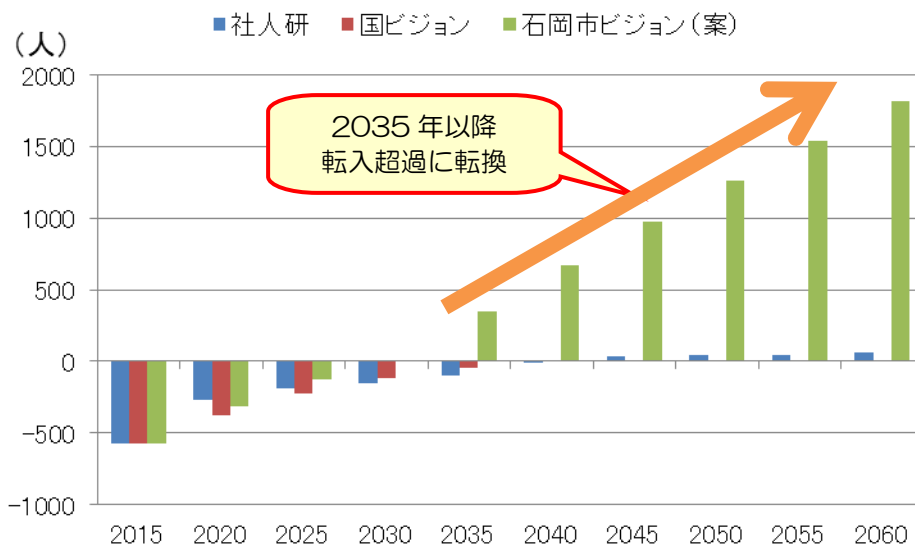
※社人研：社会問題・人口問題研究所の人口推計において用いられている値

※国ビジョン：国の長期ビジョンにおける人口推計で用いられている値

▲石岡市人口ビジョンにおける合計特殊出生率の目標値

②社会増減（転出入）の目標

社会増減の目標値は、「国の長期ビジョン」を参考としつつ、石岡市として更なる移住施策等を展開することで、2035年以降増加に転じることを目標として設定しました。



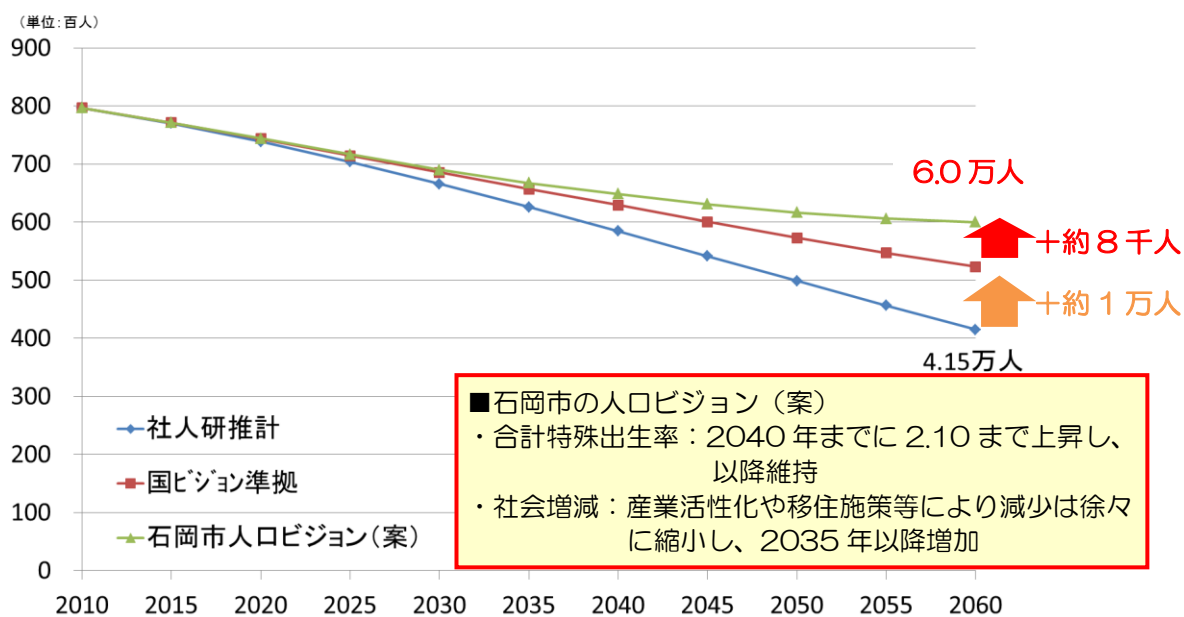
※社人研：社会問題・人口問題研究所の人口推計において用いられている値

※国ビジョン：国の長期ビジョンにおける人口推計で用いられている値

▲石岡市人口ビジョンにおける社会増減の目標値

(2) 石岡市の人口ビジョン (案)

上述の各種目標値を基に、石岡市の将来人口目標となる「石岡市の人口ビジョン (案)」を設定しました。国の長期ビジョンで用いられる各種値（合計特殊出生率や社会増減の変動）を用いた将来人口（2060年で人口約5.2万人）を上回る、2060年で人口6万人（現在の約75%）を維持することを目標とします。



▲石岡市の人口ビジョン (案)